

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室・法人部・企画室
大項目	12 管理運営・財務 《全学的な視点》	
中項目	12.1 管理運営	
小項目	12.1.1 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。	
要素	中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知 意志決定プロセスの明確化 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化 教授会の権限と責任の明確化	
小項目	12.1.2 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	
要素	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用 学長、学部長・研究科長および理事（学務担当）等の権限と責任の明確化 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 新基本構想推進委員会との協同によって、新中期計画を着実に執行する。	→新中期計画における各実施計画案の進捗状況	B	B	B	B	/
2. 新基本構想に盛り込まれながら素案にとどまった諸案の検討を進め、実施計画化する。	→新規に立案される実施計画案数	B	B	B	B	/
3. 教員の組織的な連携体制と責任の明確化により、新たなガバナンス体制・マネジメント体制を構築する。	→2009年12月までに法人と大学が一体となったガバナンス検討委員会の答申を作成し、新たなガバナンス体制・マネジメント体制構築の方向性を大学評議会、理事会に報告し、2010年度以降に引き継ぐ。	D	C	B	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	全施策74のうち、完了したものが6施策、実施計画として進行しているものが57施策である（前年度の施策数は73のうち、完了が6、実施計画が54）。実施計画を着実に完了させることが今後の課題である。
目標2	素案にとどまっている施策数は11である（昨年度は13）であり、2施策を新たに実施計画に移すことができた。立案から5年を経たなお素案のままである施策の扱いについて検討することが課題である。
目標3	2013年4月より、学長が副理事長に就任し、副学長が常任理事に就任し、常任理事が副学長に就任する制度を発足させた。また、研究推進・社会連携機構の他に、教務機構、学生活動支援機構、情報環境機構、国際連携機構を発足させ、全学的に組織の再編を行った。各機構は副学長が機構長として統括する。これにより、従来は「法人」と「大学」に分離されていた執行体制を一元化し、機構が自律的に業務を実施できる体制を確立した。
備考	